



株式会社 岐阜新聞社

ふるさと岐阜を愛し、地域とともに歩む総合メディア企業として、岐阜新聞やフリーペーパー、インターネット、SNSなどを駆使して健康に関する情報発信やイベント告知を展開している。

〒500-8577 岐阜市今小町10
TEL.058-264-1151(代)

創刊 ● 1881 (明治14) 年7月
代表者 ● 代表取締役社長 矢島 薫
従業員数 ● 183名 (男134名・女49名)

<https://www.gifu-np.co.jp/>

県民の健康を守るため
新聞社として
できることを追求



清流の国ぎふ 健康・スポーツポイント事業

岐阜県では、平成30年度より健康づくりの取組みを行うことによりポイントを獲得し、一定のポイントを貯めると特典が受けられる「清流の国ぎふ健康・スポーツポイント事業」を実施しています。なお、令和4年8月からスマホアプリでも参加できるようになりました。



まずは

参加登録

STEP 01



既定シート または スマホアプリ

健康づくり・スポーツメニューへ参加します

市町村や保健センターの窓口で既定のシートをもらいます。または、スマホアプリ「スポーツタウン WALKER」をダウンロードし登録することで参加できます。*アプリでの参加は18歳以上に限ります。



iPhone Android

STEP 02



健康づくり活動

健康づくり活動を継続的にを行います。

スポーツイベントやウォーキングに取り組んだり、検診や特定検診、人間ドックの受診、講座・教室等に継続的に参加すると、所定のポイントが加算されます。

STEP 03



ポイント獲得

ポイントを獲得し、貯めます。

健康づくり活動の項目ごとに所定のポイントが貯まります。健康づくり活動に継続的に参加して、基準ポイントを目指しましょう。

STEP 04



カード進呈

ミナモ健康スポーツカードが交付されます。

基準を達成したチャレンジシートを市町村窓口へ提出すると、「ミナモ健康スポーツカード」が交付されます。スマホアプリで達成した場合は、アプリ上に表示されます。県内の協力店でカードを提示すると、お得な特典を受けることができます。

STEP 05



賞品獲得

抽選で健康グッズや県産品が当たります。

ステキな賞品へ応募もできます。



健康づくりチャレンジ月間

※年度によってテーマは変更となる場合があります。

令和4年度テーマ

1ヶ月ウォーキングチャレンジ

(令和4年11月実施)

清流の国ぎふ健康・スポーツポイント事業の取組みの一つとして、「健康づくりチャレンジ月間」を実施しています。

令和4年度の取組み内容

- 記録シートまたはスマホアプリにより、1ヶ月間ウォーキングを続けます。
- 最低基準歩数(1日平均4,000歩)をクリアしたら抽選で県産品等の賞品が当たります。

協力店を募集しています!

お申込み・お問い合わせなど、詳しくは岐阜県のホームページをチェックしてください

清流の国ぎふ健康・スポーツポイント事業 [検索](#)

※年度によって、事業内容が変更することがあります。





2021年に創刊140年を迎えた、岐阜県に根差した地方紙である岐阜新聞。岐阜新聞社では、社是である「岐阜を愛し、人を愛し、仕事を愛する」を体現すべく、従業員やその家族に向けた健康経営に取り組み、21年には県の「清流の国さび健康経営優良企業」の表彰を、22年には経済産業省と日本健康会議が共同で選定する「健康経営優良法人2022」の認定を受けています。「長く健康でいてほしい」という思いは県民に対しても同様で、イベントや紙面を通して健康づくりの大切さを広く訴えています。

毎年恒例の健康ウォーク 幅広い年代が 楽しく金華山登山

岐阜新聞社が主催する地域に向けた健康づくりのイベントとして長い歴史を持つのが、毎年11月3日にしている「さび健康ウォーク」。岐阜市の岐阜公園から金華山を目指し登りは七曲り登山道から岐阜城へ下りは東坂ハイキングコース、唐釜ハイキングコース等を通り、岐阜公園に戻ってくる全長約5kmの道のりを、スタンパフォー等を楽しんだ



もういながら歩くイベントです。コロナ禍の現在は密を避けるため700人程度の参加者に制限していますが、過去には2000人以上が参

加する年もあったほど、地域に根付いたイベントとなっています。スタンパフォーやクイズ、旬の果物や健康づくりに関わるグッズ等が当たる抽選会があることも人気の理由の一つです。

午前中に出発し、午後2時頃までに下山すれば良いため、お弁当を持って参加する家族連れも多数。毎年のように参加する70代、80代も多く、「病気をしたけれど、健康ウォークへの参加を励みに頑張った。参加できて良かった」とこの行事に「二度も多く参加することが目標」と語る方もいるほどです。イベントという性質上、スタッフの配置も多く、さらには看護師も待機しているため、「何も無い日に登るよりも、何かあったときに安心」と、健康ウォークで金華山登山デビューを果たし、その後は習慣的に登るようになったという人もいます。

50年の歴史を持つ長良川清掃 歩き回ることで 汗をかく機会に

岐阜市の長良川の鵜飼い大橋上流から忠節橋下流の河岸約4kmのゴミを拾う「長良川を美しくしよう運動」も恒例行事。現在は長良川鵜飼



の開幕前と閉幕後の年2回行っています。開始は1973年と、50年の歴史を誇ります。健康づくりをメインにうたったイベントではありませんが、朝早くに起きた参加者が1時間ほど歩き回ってゴミ拾いをするため、エリア内の堤防道路脇に設けられたゴミステーションでは、拾ったゴミについての話題だけでなく、「久しぶりにこんなたたくさん歩いた」「たたくさん汗をかいて気持ちが良い」などの声が飛び交います。

県内全ての成人式会場 子宮頸がんの紙面を配布

岐阜新聞の紙面上では、2010

年から毎週、連載「教えてホームドクター」と題して、県内の医師が病気の治療法や予防法、対策などを分かりやすく解説するコーナーを連載したり、がんや特定の疾病に関する特集記事を掲載したりしています。

2014年からは、子宮頸がんなど婦人科系疾病を中心に女性特有の健康問題について啓発する「さび子宮頸がん予防啓発キャンペーン」を展開。産婦人科医による「女性ホルモントーク」「ライフプランと妊孕性」などの解説や、助産師や看護師、薬剤師、出産経験者らのインタビューなどについて新聞紙面で特集しています。新聞の読者以外にも広く啓発しようとして、特集記事をまとめて8ページの別刷り紙面を1万3000部発行し、県内全ての市町村の成人式で配布しています（一部市町では会場に設置）。

本年度のキャンペーン「わたしのキャンパスプロジェクト」の別刷り紙面の表紙には「一人でも多くの女性が子宮頸がんをはじめとした婦人科系疾病にへきかかれず、思い描いた人生を歩んでほしい」と願うのものと、輝く女性の健康を応援しています」というメッセージが大きく書かれています。担当した営業部の岡田



陽子さんは、「若い方でも婦人科系疾患にかかるとは珍しくありません。このキャンペーンの取材を通して、多くの疾病は、早期発見・早期治療さえできれば、命の危険にさらされたり、妊娠できなくなったりするといった事態は避けることができる」といことがわかりました。出産経験のない方にとって婦人科は行きつらいうところかもしれませんが、怖いところではないことは紙面から伝わると思われます。若いうちから定期的に検診に足を運んでいただけたら」と話しています。



また、婦人科医とともに高校や大学を訪問してのセミナーの開催や、映画館とタッグを組んで映画の試写会を行い、本編に入る前に女性に関する疾病の啓発映像を上映するなど、検診受診の大切さを幅広く周知しています。

食事は健康な身体づくりの基本 料理教室や離乳食講座を 多数開催

「健康のためにはまず、1日3食きちんと食事をするのが大事」との思いから、読者や親子を対象にした料理教室や収穫体験イベントなどを開催しています。

読者を対象にした岐阜新聞料理教室は、これまでに1500回近く開催。ホテルレストランのシェフや料理教室主宰者が講師となり、地元でとれた旬の野菜をふんだんに使った、メイン料理、汁物、副菜、デザート作り方をレクチャーしています。

2018年からは、生活協同組合「オープ」さんと東海学院大学管理栄養学科の協力で離乳食講座を開催。22年11月に開かれた講座では、大学教員の指導のもと、調味料を使わずに昆布で味付けしたスープや、赤ちゃ

んが手に持てる大きさに整えた鶏そぼろバーグなどの離乳食を調理しました。保護者2人と赤ちゃんでの参加とし、一方が調理している間、もう一方の保護者と赤ちゃんは遊んで過ごす「ふれあいタイム」の時間と育児の悩み相談コーナーを設け、育児に迫られる保護者の気持ちに寄り添いました。



岐阜新聞社の矢島薫社長は「多くの県民が健康で笑顔あふれる毎日を送ることは何よりも大切なこと。県民の健康づくりにつながるようこれからも子どもから高齢者まで多くの方が参加できるイベントを開催していきたい」と話しています。

